

Title	成熟期を迎えた石油業界再編成問題に関する一考察
Sub Title	
Author	安部生朗(Abe, Ikuo) 藤枝省人
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1983
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1983年度経営学 第250号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001983-0250">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001983-0250</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 安部生朗 主査 藤枝省人  
(エッソ石油株式会社) 副査 加藤寛  
所属ゼミナール 藤枝省人研 田中滋

## 成熟期を迎えた石油業界再編成問題に関する一考察

需要の長期的低迷による構造不況に苦しむ石油産業構造改善対策として政府は過剰設備処理と企業の水平的集約化を柱とした業界再編成に着手した。本稿では、これ迄の石油産業組織に関する研究ではあまり取上げられていない、最近の我国石油市場特性に関する時系列的実証研究に主眼を置き、望ましい市場成果を得るための産業秩序政策とはいかにあるべきかを考察する。

石油市場構造と利潤率との相関及び企業間収益力格差を分析した結果、当業界の脆弱な財務体質は政府の指摘する様な企業数過多による過当競争体質に帰因するものではなく、硬直的市場特性と長期に及ぶ行政介入がもたらした市場機能の疲弊と企業の自律的利潤追求の意識欠如によることが立証された。次に石油産業を市場成果規準で評価した結論を要約する。1) 大型製油所での集中処理は輸送規模の経済性により正当化されるが、消費地までの製品転送費とのトレードオフ次第である。2) 企業規模の経済性は認められない。3) 資本生産性は他産業より劣る。

以上の分析結果を基に市場成果規準からみた有効競争を促進する為の業界再編成について提言を行った。1) 企業/地域間の需給ギャップ解消と資本蓄積を目的とした垂直的再編成の促進、2) 制度的参入障壁の徹廃と製品市場の段階的開放、3) 民族資本による原油開発分野での国際化。

政府の役割としては、非効率製油所並びに関連中小企業の転廃業助成策、市場機能の強化と経済性重視指導、上流部門での民族系育成、官民研究開発体制の強化と役割分担の明確化等が要請される。